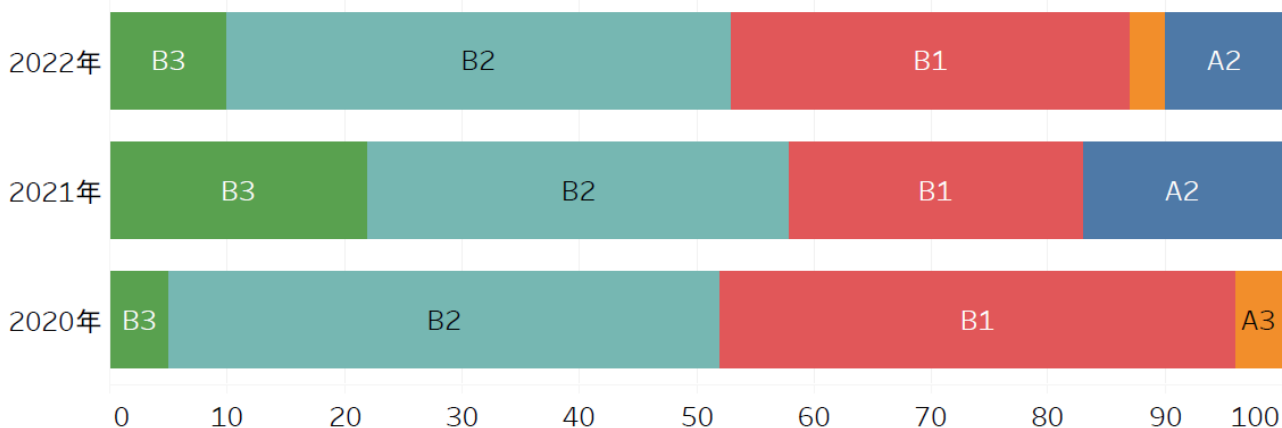


2022年 浅野 算数

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題を中心として、知識・技術の再現力が求められる思考コード A の問題が出題されます。昨年と比べて、2022 年は、B1、B2 の出題が増えました。取り組みやすさのハードルは、若干下がった印象を受けましたが、出題分野は、計算、速さ、平面図形、論理・推理、数の性質、立体図形と、例年通りバランスの良い構成でした。



大問 1 は、例年通り、計算、一行題です。(1)~(3)は、テキストにも見られる典型的な問題です。(4)は、途中で船が停止してしまう流水算です。ここで手が止まった受験生も多かったと思います。静水の速度と流速に注目することがポイントです。上りの「静水の速度で 17 分間進み、流速によって 22 分間減速している状態」と、下りの「静水の速度で 5 分間進み、流速によって 5 分間加速している状態」を利用します。(5)は、昨年の「円周率が 3 より大きい理由を説明する問題」と同じく、面積を二等分する直線を作図し、二等分できる理由を説明する問題でした。類題を経験したことのある受験生も多かったと思います。2つの長方形に分けて、対角線の交点を利用することがポイントです。大問 2 は、円柱をくり抜いた立体を水そうに沈める問題です。基本的な問題となるため、ここは、得点しておきたいところです。

大問 3 は、「数独」に似た問題(4×4 マス)です。過去に慶應義塾大学(SFC)の数学で、数独が出題され、話題になったことがありました。以後、中学入試でも数独に似た問題を見かけるようになった気がします。ここでは、ていねいな誘導がかかっているため、取り組みやすいと言えます。大問 4 は、題意がとらえづらかったかもしれません。(1)、(2)は調べて完答できても、(3)でつまづいた受験生が多かったと思います。「80 と 100」、「80 と 100 と 144」の最大公約数に注目することがポイントでした。大問 5 は、「電灯と影」の問題でした。苦手意識を持つ受験生も多く、ここで差がついたと思います。(2)、(3)は、立体を取り除いた形となるため、ハードルが高かったと思います。ここを見送り、他の問題に時間を向ける方がよいでしょう。

例年通りの問題構成でしたが、特に、大問 1(4)、大問 3(4)、大問 4(3)、大問 5(2)、(3)で差がついたと考えられます。あくまでも予想ですが、これらの問題を落としても、およそ 7 割には到達できると思われます。